



志木二中だより

～気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中～

令和3年度 4月号
令和3年4月8日(木)
志木市立志木第二中学校
志木市館1-3-1
TEL:048-473-2379

新しい年度を迎えて

校長 本 莊 真

昨年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策に追われた一年間になりました。現在も予断を許さない状況ではありますが、学校は開いていて入学式も予定通り举行できるので、一年前と比べるとたいへん前向きな気持ちでいられます。新しい教職員を迎え、気持ち新たに新年度を迎えております。

今年度も、目指す学校像を『気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中』としました。「あいさつ」がしっかりできる生徒の育成が、学校教育目標である『勇氣 信頼』につながると考えます。「あいさつ溢れる学校」にしていきます。生徒、保護者、地域、教職員、全員のご協力をお願いいたします。私は、今年度も朝校門に立ち、皆様と気持ちの良いあいさつをしていきます。

さて、私が最近心を揺さぶられたのは、4月4日の水泳の日本選手権で、池江璃花子選手が100mバタフライで優勝し、東京オリンピックのメドレーリレーの代表に内定したということです。ご存知の方が多いでしょうが、池江選手は2年前に白血病となり10か月の入院、闘病生活となり体重が15kgも落ちたということです。リハビリをしながら泳ぐこともできるようになり、「パリオリンピックを目指します」などと話されていました。それが今回、奇跡の復活ともいえる泳ぎを見せてくれました。レース後のインタビューで「自分が勝てるのはずっと先のことだと思っていました。自分がすごくつらくてしんどくても、努力は必ず報われるんだというふうに思いました。」と。「努力は必ず報われる」という言葉は、我々教員もよく生徒に話したりしますが、池江選手が今回言われた言葉の重みはものすごい説得力をもって響きました。努力をしても人によって「報われ方」は違うと思います。優勝やオリンピック代表内定のように華々しいものではないことの方が多いでしょう。テストの点が少し上がった、部活の練習で良い技が1回できた、親や先生に「がんばっているね」と褒められた、そういったことで達成感や自己肯定感が育まれ、「またがんばってみよう」となるのだと思います。

志木第二中学校の教職員は、生徒のがんばりを認めることを大事にし、教育活動を行っています。親としては、なかなか我が子の良さががんばりが見えにくく、悪いところばかりが目につく年頃かもしれません。ですが少しお子さんと距離をとり、良い面を見てあげてほしいと思います。家庭と学校、そして地域が連携し協力していかないと、人を育てることが難しい時代です。

これから一年間、皆様の本校へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。